

ミズダコの移動と成長

標識放流から明らかとなった北海道オホーツク海沿岸におけるミズダコの生態

城 幹昌（網走水産試験場・調査研究部）・協力：網走管内たこ漁業連絡協議会

成果の要約

- オホーツク海沿岸のミズダコは季節的な深浅移動をすることが分かった（夏：沖合へ、冬：沿岸へ）
- 横方向（他地区へ）の移動は少なく、放流した地区での再捕が圧倒的に多いことが分かった
- 夏～秋季には非常に高成長だが、冬～春季には成長は非常に遅いことが分かった。

研究の背景

- ミズダコは重要な沿岸漁業対象種（2010年北海道全体の水揚げ金額：48.4億円）であるが、生態的な知見は少ない
- 管内の協議会では、2～3kgより小型で漁獲されたミズダコの海中還元に取り組んでいる
- 海中還元されたミズダコがどこへ行くのか、どれくらい大きく成長して再度漁獲されるのかという情報が求められている

研究の目的

- 放流・再捕時の情報（位置・体重・日数）から放流されたミズダコの移動と成長について明らかにする
- 漁獲された小型ミズダコを海中還元する取り組みの意義について検討する

研究の成果

- 放流地区での再捕が85%を占め、長距離移動をしたタコは1988年以降でわずか4個体であった（図1&2）
- 夏季に再捕されたミズダコの再捕水深は深い、秋～春季は浅い場所が多いことが分かった（図3）
- 3～4月に放流され、7～11月に再捕された個体の日間成長量は1日あたり平均30gを超えていた（図4）
- 8～11月に放流され翌年4～6月に再捕された個体の成長は1日あたり平均4.8gと成長は遅かった（図5）
- 海中還元された小型ミズダコは短期間で大きく成長し、同じ地区で再度漁獲できる可能性が高いといえる

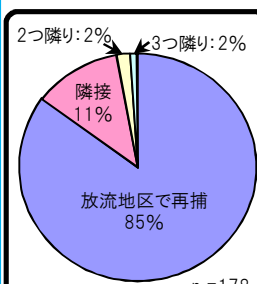


図1：放流と再捕の地区

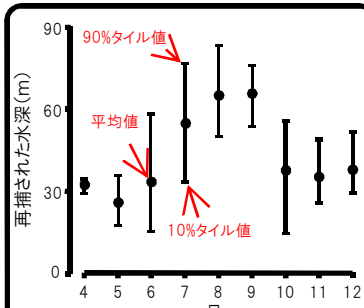


図3：月別の再捕水深

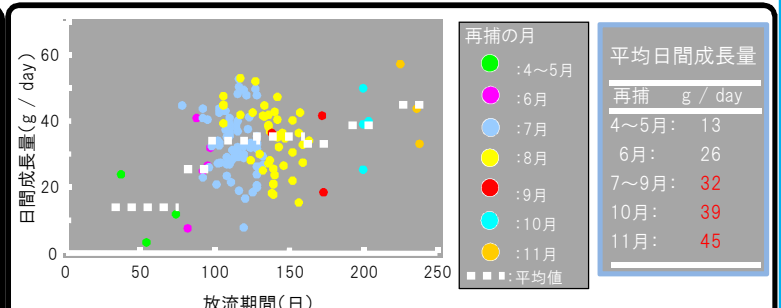


図4：3～4月に放流され、11月までに再捕されたミズダコの成長

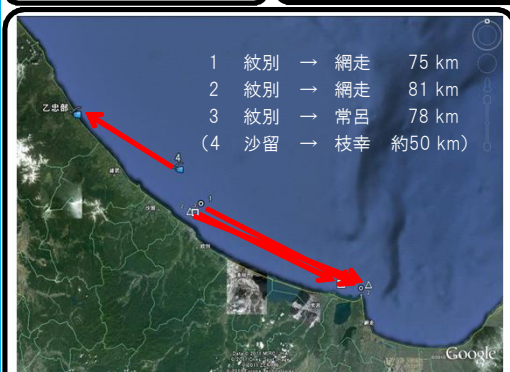


図2：長距離移動は4例のみ

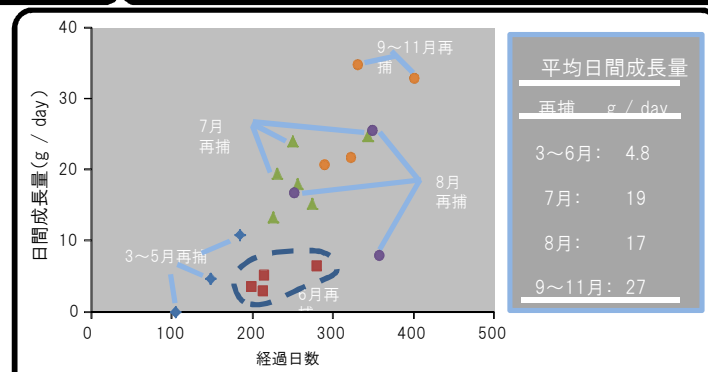


図5：8～12月に放流され、翌年再捕されたミズダコの成長

成果の活用策

協議会総会や各地区の漁業者研修会等で結果を報告し、小型ミズダコの成長・移動の知見や、海中還元は意義があるということが現地に浸透してきている。本結果は、2010年度日本水産学会春季大会で発表された。